

NPO法施行10周年・みえパートナーシップ宣言10周年事業  
第2回実行委員会概要

日 時：平成20年9月24日（木）19：00～21：00

場 所：みえ県民交流センター 交流スペース

出席者：杉田宏、前田昌身、千賀さわ子、馬場基記、岡本光晃、山本康史、中盛汀、  
前川浩也、吉島隆子、出丸朝代、亀井敬子、福西秀文

事務局：古川明郎、明石須美子、辻千賀子、富山達也

はじめに（自己紹介）

今回は丸いテーブルで話し合いました。

1 前回の概要について

第1回実行委員会議事録に沿って前回の概要を確認しました。

2 実行委員長、副委員長選出

事務局から、「山本康史さんに実行委員長をお願いしたいと考えている。今後10年を担っていただく方であり、10年前のこともよくご存知の方であるので、是非お願いしたい。」と説明があり、拍手により山本康史さんが実行委員長に選出されました。

副実行委員長は、10年を知っている方と、これから10年を担っている方がいいのではないかという意見があり、これからの10年を担っていただく方として前田昌身さん、これまでの10年を知っている方として吉島隆子さんが、副実行委員長に選出されました。

3 本日の議長選出

「議長ではなく進行役とする。より多くの意見を出してもらうため、毎回交替で行う。また、打合せをせずに進行するのは大変なので、会の終わりに次回の進行役を決める。」等を確認し、本日は、山本康史さんをお願いすることになりました。

4 事業の目的について

= 事務局説明 =

規約の第2条の目的は、誰が何の10年をふりかえって、今後の何の10年を考えるのか、何のための交流なのか、がはっきりしていないという意見があった。より目的を明確にするため、次のとおり補足説明文を作成した。



規約第2条(目的)補足説明(事務局案)

NPO法施行10周年、みえパートナーシップ宣言10周年の機会に、これまで10年で、どのようにNPO活動が行われてきたか、またNPOを取り巻く環境がどうなったか、その結果、社会をどう変革させたかを、市民活動・NPOに関わってきた個人・団体(NPO、行政、企業等)が、ふりかえる。

また、市民活動・NPOに関わってきた個人・団体(NPO、行政、企業等)が、今後10年で、どのように社会を変革させていけばいいのか、そのために、どのように行動し、どのように公共を担っていくのか、具体的に何をするのかを考える。

そのために、まずは、NPO、行政、企業、大学、市民などが、お互いに理解を深める機会とするため、交流する場をつくる。」

= 第2条(目的)の補足説明文について =

- ・ 「今後10年で、どのように社会を変革させていけばいいのか、そのために、どのように行動し、どのように公共を担っていくのか、具体的に何をするのかを考える。」という文章では、NPO自身がどうあるべきということが抜け落ちている。

NPOは当たり前前に存在することが前提になっているが、“NPOが何故低調なのか、NPOがどう成長してきたのか”を考えたいうえで、補足説明に書いてあることを考えるのではないのか。

NPOが公共を担うために、どう成長し、どう力をつけていかなければならないのかという議論が必要である。“NPOがどうあるべき”というのは、組織をどうやって維持していくのかということであり、“どのように行動するか”は、公共事業を取りに行くとか、行政と対峙することであるので、言葉足らずである。

社会制度の欠陥のせいで、NPOに人がまわってこないとか機会が少ないと言うが、これからの社会に太刀打ちするためにNPOなどの非営利組織自身がどうあるべきか、というのを考えないといけない。

- ・ 事務局としては、“行動”の中に、当然言われたことも含んで書いたつもりであるが、読み取りにくいということであれば、違う表現にする。
- ・ NPOの基盤強化、能力アップ、企業と戦う力を付けるといったことを議論に乗せるべき。ここで言わなくてもワークショップのテーマになっていくと思うが、“一役を担うためにNPOがどんな力をつけていくべきか”というように具体的に書いてほしい。



- ・ 事業内容に比べると目的のスケールが大きいのではないか。
- ・ 目的は、“きっかけとする”だけでもよい。また、交流の場か考える場かというのは、事業の中身であって、これから検討することなので、“目的”の中で交流の場と言わなくてもよいのではないか。
- ・ これから考える事業で色々なことができるような目的となっていればいいのではないか。目的の主語がどうというより、中身が問題と思う。
- ・ 社会を変革というのは、わかりにくい。

#### = 事業の「対象者」について ( 1 ) =

- ・ NPOを知らない人が知りたいと思うような、未知の人を呼び込む事業にしたい。一般の人を呼び寄せて関心を持ってもらうものにしたい。
- ・ 参加者は、NPO活動を真剣にしている人になると思う。一般の人を集めるなら、NPOって何だろうというところからやらないといけなくなる。どういう参加者を狙ってどうしていくのかをはっきりさせた方がいい。
- ・ 全く関心のない人を呼び込むのは難しい。山岡さんの話は全くNPOを知らない人が聞く話ではないように聞いている。活動の悩みをもっている人が集まり、ヒントを得て今後の事業に生かしていけるイベントにしたらいいいのではないか。

#### = 目的の「主語」について =

- ・ 活動の悩みから事業に生かしていけるようにするというのは、初めのNPO自身のことを考えるという意見と同じである。主語を、企業、行政、一般の県民を含んだ“NPOに関わる人たち”としてはどうか。
- ・ 主語はなくてもいい。企画の中でどういう人に集まってほしいかで決まる。
- ・ 主語のことを話題にしたのは、みんな考えていることが違うと思ったので、明確にしたかったからである。議論できただけでもよかった。

#### = 「交流の場」について =

- ・ 第2条に、“これまでの10年の交流の場をつくる”とあるが、交流の場で終わるのは、違和感がある。
- ・ 基盤をどう強化するのかというところで、一般の人や企業に理解をしてもらうために交流は大事と思う。
- ・ 一般の人にイベントの中だけで理解してもらえとは思えない。NPOが戦略的にどうするかで理解してもらおうものだと思う。
- ・ 企画案に触れて申し訳ないが、ブース展示で触れ合うのも交流ではないか。
- ・ ブース展示をしても行政や企業の人に知ってもらうことが目的ならできるが、一般の人を対象に交流するのは難しい。

= 事業の「対象者」について(2) =

- ・ 全くNPOに関心のなかった人を対象とするのか。NPOに関係のある人を対象とするのか。他の意見はないか。この二つでみなさんの思いを聞きたい。一般も含めて対象とすべきと思う方は？(挙手1名)悩みを持っている方を対象とするとすると思う方は？(挙手多数)一般の人は来ては駄目と言うことではないが、メインターゲットは、ある程度NPOに関わっている人とする。

= 規約の修正について =

- ・ 補足説明は説明であって、これを規約第2条とするものではない。当初の規約第2条を見直す。
- ・ これまでの意見にあったような事業にするために目的を考えると、最後の“交流の場”というところは削除する。
- ・ “NPO関係者(企業、行政等を含む)”を主語とする。
- ・ “考えること”を目的とする。

【主な意見】

規約第2条(目的)の補足説明文について

- ・ NPO自身がどうあるべきという部分がない。“一役を担うためにNPOがどんな力をつけていくべきか”というように具体的に書いてほしい。
- ・ 目的のスケールが大きい。補足資料は具体的事業を作るときの視点となっているが、規約の“目的”は、当初案の“きっかけとする”までとし、交流の場とまで言わなくてよいのではないか。
- ・ 規約の“目的”なので、色んな事業ができるような形になっていければいい。
- ・ 社会を変革させるといのがわかりにくい。

事業の対象者について

- ・ 一般の人を対象に、NPOに関心を持ってもらうものにしたい。
- ・ NPO活動の悩みを持っている人が集まり、今後に生かしてもらえるイベントにしたい。

目的の主語について

- ・ 主語を、企業、行政、一般の県民を含んだ“NPOに関わる人たち”としてはどうか。
- ・ 主語はなくてもいい。企画の中でどういう人に集まってもらうかで決まってくる。

交流の場について

- ・ 交流の場で終わるのは違和感がある。
- ・ 一般の人や企業に理解してもらうために、交流は大事ではないか。
- ・ イベントの中だけで一般の人に理解してもらうのは難しい。

### 【確認したこと】

#### 対象者について

- ・ メインターゲットは、ある程度NPOに関わっている人とする。

#### 規約第2条(目的)について

- ・ 主語を入れて、交流の場の部分を削除する。

#### 規約第2条(目的)

NPO関係者(企業・行政等を含む)が、NPO法施行10周年、みえパートナーシップ宣言10周年の機会に、これまでの10年をふりかえり、今後の10年を考えることを目的とする。

## 5 事業の企画について

### = 事業企画の具体的なアイデア出し =

- ・ 三者鼎談(出丸さん、山岡さん、県内NPO)と、テーマ別分科会。
- ・ 基調講演と、グループ討議。(グループ発表は時間的に難しいので、コメンテーターが整理、講評し、課題を明らかにする。)
- ・ 会場参加型パネルディスカッション。(例えば、会場の参加者に旗上げで意見を聞きながら展開して行けるとおもしろい。)
- ・ グループ討議。(時間的な制約があるので、流れをつくらないと難しい。議論のきっかけづくりとして、講演で三重県の現状のようなふりかえりをする。参加型で、グループで課題出しをやった方がよいが、時間がないので、コーディネーターが全体をまとめて課題を明確にする。)
- ・ NPO活動をしている人なら必ずぶち当たっているだろう困っていることを、一つか二つ、パネルのテーマにしたらいいと思う。
- ・ NPOクイズ(アイスブレイクが必要。札をあげるなどしてNPOに関するクイズをしてはどうか。賞品も準備できるとよい。)
- ・ 基調講演前にこの10年を説明する。(前回の委員会で10年間の変化の状況と現在の三重県の状況を時系列と他との比較で分析するという意見があった。それが明確にわかるような取り組みがある。これまでの10年の三重県の取り組みがあって今があるという説明があって基調講演につなげていく。)
- ・ 企業展や大学のオープンキャンパスのイメージ。(呼びかけが必要となるが、参加型でひきつける。何が生まれるかは蓋を開けないとわからない。)
- ・ 団体の活動カタログ。(過去の交流会で、どんな活動があるのかが後でも見られるようにカタログのようなものを作った。今後の連携につながるような、連絡先も入っているものがあると役に立つと思う。今は県民センターのNPO担当もいなくなって、各地域の支援センターに繋いでいけるものがよい。)
- ・ 基調講演(1時間くらい)、パネルか円卓会議、ブース展示(いろいろな団体の活動紹介をして、みんなの目に触れるようにしたい。)
- ・ 成果発表の日とする。当日より事前の準備を楽しむ。事前に得られるものを作っておきたい。10年活動した人へのアンケート(10周年を2時間

や3時間で説明できるとは思えない。10年をふりかえるのであれば、10年活動した人にアンケートや聞き取り調査をして、まとめて発表する。活動を始めてまだ年数の浅い人が、10年以上活動している人に「あなたにとって10年はどうだったのか。三重県はどうだったのか。」を聞く。インタビューの過程でアドバイスももらえて面白いと思う。また、アンケートの結果からテーマが見えてくる。テーマはこのメンバーだけで決めてはいけない。(客観性のある資料にもとづいてやるべき。) 10年間の年表、どでかい活動団体地図づくり(三重県の地図にすべての活動団体の本拠地を入れるなど。手間がかかるがインパクトがあるものにする。一覧で見るだけでなくビジュアルで見えてくるものがあるのではないか。) 10周年ご苦労様でした表彰(あと10年は、頑張るというトロフィーを渡す。)

= 企画アイデアについて意見交換 =

- ・ これまでの10年は、法人格がとれるということで走ってきて壁にあたっている。これからの10年をどうするのが大切である。公益法人改革も含めて三重県として、これからの社会をどうしていくのか。パートナーシップ宣言を作ったときのような話が出てこないと思う。歴史を誇らしく思いながら、次の10年に進むのがよいと思う。
- ・ ある程度アピールすると県外からの参加があるかもしれない。企画を見ると三重県内に限定してしまっていないか。
- ・ 前もってアンケートするのはいいと思う。基調講演を聴いても、10年をふりかえるところに参加する機会がない。10年やってきてどうだったのか、どんな課題に直面していて、どうなりたいと思っているのかということを知りたいと思う。実行委員会としては荷が重いけど、これまでの10年、これからの10年をどう考えているかを聞きたい。
- ・ ブース展示やアンケートは賛成。ポスターセッションなどの形もある。参加してもらった人以外にも、それぞれの活動の発表の場を設けて色々な形で訴えるというのはいいいと思う。

【アイデア(項目のみ)】

全体で行うもの

基調講演、三者鼎談、会場参加型パネルディスカッション、円卓会議

分かれて行うもの

テーマ別分科会、グループ討議

アイスブレイク

NPOクイズ、どでかい活動団体地図づくり、10年間ご苦労様表彰

10年をふりかえる取組

三重県の取組の説明、10年間の年表

#### 団体紹介

企業展や大学のオープンキャンパスのようなイメージのもの、  
団体の活動カタログ、ブース展示、ポスターセッション  
10年活動した人へのアンケート

#### 【主な意見】

- ・ 一方的に聞くのではなく、とにかく会場参加型でやる。
- ・ グループに分かれてするものは、時間の制約があるため、流れを作り、コーディネーター（コメンテーター）によるまとめが必要である。
- ・ テーマはNPOが困っていることやアンケート結果から検討する。
- ・ アンケートなど、当日よりも事前の準備で得られるものをやる。
- ・ 県外参加者を見込んだ企画にしないでよいか。
- ・ 歴史を誇りに思いながら次の10年に進むのがよいと思う。
- ・ 当日は、参加者が10年をふりかえる機会がないので、アンケートで声を聞くのはよい。
- ・ 参加者以外にも活動の発表の場を設けて訴えるのはよいと思う。

#### = 今後の日程等について =

- ・ 第3回、第4回の進行役は、引っ張っていかないといけないので、引き続き山本さんをお願いします。
- ・ チラシの差し込みが10月27日であるため、あと2回で内容を決定する。次回は企画案をもう少し出し合って練り直しをし、大体の骨格まで決めたい。3回目はチラシをつくるための詳細な事項を決める。講師やファシリテーターなどの出演者まで決められるようもっていきたい。アンケートの内容も検討する。
- ・ 講師の拘束時間は、13時から17時までとし、講演は1時間をお願いします。
- ・ 市町や市民活動センター、NPOへの事前の周知が必要である。早い段階で参加協力依頼をする。
- ・ 予算は、今年度の既存事業の予算で対応する。2～30万はある。もう少し必要ということになると予算の組み換えが必要になる。

#### 【確認したこと】

- ・ 第3回で企画の骨格を決める。第4回では出演者まで決める。第3回、第4回の進行役は、山本康史さんをお願いします。
- ・ 講師には13時から17時で依頼する。講演は1時間。
- ・ 市町や市民活動センターへ早い段階で参加協力依頼を行う。
- ・ 予算は2～30万。

次回 第3回 10月 9日(木) 19:00～ ミーティングルーム